

令和5年度「愛顔でつなぐ“学校・家庭・地域”の集い」

「地域ぐるみで育むえひめっ子未来創造事業」普及啓発事業

愛媛県教育委員会では、幼稚園から高等学校までの保護者・教職員及び教育支援関係者、福祉関係者、企業関係者等が一堂に集い、学校・家庭・地域が連携した県民総ぐるみによる教育支援体制づくりについて学び合うため、平成25年度から毎年「愛顔でつなぐ“学校・家庭・地域”の集い」を開催しています。

- 1 主 題 「社会総がかりで、愛媛の子どもたちを健やかに育てよう」
 2 日 時 令和5年8月29日(火) 12:30~16:35
 3 場 所 愛媛県生涯学習センター・えひめ青少年ふれあいセンター
 4 参加者 336名
 5 内 容

(1) 講演

テーマ:「学校・家庭・地域の連携・協働～子どもとまちの未来のために～」
 講師:特定非営利活動法人まちと学校のみらい 代表理事 竹原 和泉 氏



(2) 分科会

分科会	研究テーマ
第1分科会	【地域学校協働活動】 幅広い地域住民の参画により、学校と地域が連携して子どもたちを育てる体制づくりをどのように進めるか <発表1> 高津っ子の学びを応援する地域学校協働活動 高津校区地域学校協働本部 地域コーディネーター 秋月 恭子 <発表2> 学校と地域をつなぐ「地域教育プロデューサー」の役割と活用 野村地域自治振興協議会 地域教育プロデューサー 染田 麻弓子
第2分科会	【地域による教育機会の充実】 全ての子どもたちの教育機会の充実を図るために地域の支援体制づくりをどのように進めるか <発表1> 地域貢献とキャリア教育に向けた土曜塾の展開 松山聖陵高等学校 教諭 伊賀上 大三 <発表2> 子どものアソビ場 サードプレイスづくりを目指して 八幡浜市立神山地区公民館地域活動交流拠点施設「あすもわ」 館長 木下 恵介
第3分科会	【子育て・家庭教育支援】 保護者と子どもを支え育む子育て・家庭教育支援の体制づくりをどのように進めるか <発表1> 保護者や地域をつなぎ、共に子どもを育むPTA活動 関川小学校PTA PTA会長 眞鍋 聡 " 前PTA会長 森高 大輔 <発表2> できることから始める子育て・家庭教育支援 石田クリーニング株式会社 代表取締役 清本 有策
第4分科会	【放課後・土曜日等の子どもの支援】 子どもたちの放課後等の豊かな教育活動をどのように進めるか <発表1> 子どもたちの笑顔が集まる場所～かみじま子ども体験教室の取組～ 上島つながるプロジェクト実行委員会 代表 大西 美穂 " 事務局 中西 智恵 <発表2> 育ちあう場所をめざして～豊かな放課後への支援のありかた～ さくら児童クラブ運営委員会 主任支援員 谷川 玲子
第5分科会	【ICT時代の教育支援】 子どもたちのICT環境が大きく変化する中で、地域の教育支援をどのように進めるか <発表1> ICTを活用した子ども支援事業 玉津公民館 地域づくり支援員 一色 良 <発表2> ICTで持続可能、ぎょしょく教育活動のDX 愛南町水産課海業推進室 室長補佐 清水 貴光

6 アンケート結果、参加者の感想等

【参加者の感想（講演について）】

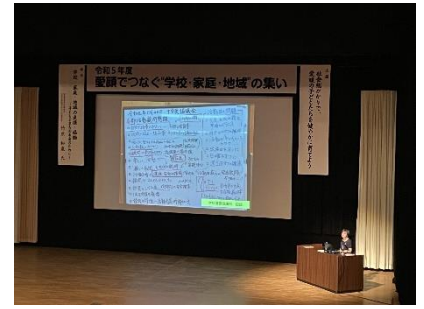
- コミュニティ・スクールが始動し、今後の方向性や実践の数々を提供していただきました。熟議のメリットにも納得できました。地域の子どもたちを導く立場として良いものを取り入れたり、新しくしたりする仕組みづくりを進めたいと思います。
- 子どもを主語に熟議したいと思いました。連携が難しく感じるがありますが、それぞれの役割や立場を理解しつつ、前進できるようがんばりたいです。
- 子育ての中で、つい口を出してしまうこと、答えを出してしまうことがありますが、それが子どもの学びを奪う可能性があることを知りました。今後、子どもたちには考える力や解決する力が不可欠になってくるため、子どもの主体性を損なわないようにしたいです。



講師の竹原 和泉氏



具体的な事例をもとにお話ししていただきました。



【参加者の感想（分科会について）】

- 他の地域から移住し、知り合いのいない所からスタートした発表者。住んでいる地域を好きになり、子どもたちと関わるための熱意が素晴らしいです。
- 子育て世代に投資しようと考えている企業があることに嬉しくなりました。子どもたちの居場所をつくるためにPTA活動を楽しもうと思います。
- 大きな夢を描き、最終的なビジョンに向けてみんなを巻き込んでいくその行動力と発想力に驚かされました。それも子どもや地域への愛があってこそだと思います。
- 学校だけでは教えることができないプラスアルファの部分、地域の方々の協力で学ぶことができることはとても意義あることだと思います。
- 課外活動を中心に活動を行っていたので、ICTを活用した事業を考えていきたいです。



事例発表の様子



質疑応答の様子



グループ協議の様子

【参加者からの提言】

- やるべきことは多くあるが、自分自身が興味・関心をもって「ひと・こと・もの」に向き合う見本にならなければと思います。学校は地域・家庭と一緒に、ますますすてきな場所になると確信しました。
- 周囲には宝物のような人材がたくさんいるので、自分の中の「あたり前」にとらわれず、人と人がつながる機会を増やし、大人がつながることで子どもたちのつながりに結び付けたいです。
- 勤務校においてコミュニカレンダーを作りたいです。講師が紹介してくださった用紙を作成し、まずは来年度に向けての動きをつくっていきたいです。

7 今後に向けて

今年度の「集い」は、講演と分科会を行い、参集で開催しました。アンケート結果では、肯定的意見が98%となりました。分科会においても、肯定的意見が99%とどちらも非常に高い評価を得ることができました。

今年度のアンケートや反省をもとに、参加者のニーズ、現代的課題と社会の要請等を検討し、来年度の講演講師や分科会のテーマを設定し、学校・家庭・地域の連携・協働について、社会総がかりで考えていく「集い」にしたいと考えています。皆様の多くの参加をお待ちしています。ぜひ、令和6年度も御期待ください。

なお、これまでの「集い」のダイジェストや今後のお知らせ等を県教育委員会社会教育課HPに掲載しております。お時間がありましたら、御覧ください。

(<https://ehime-c.esnet.ed.jp/shougai/tsudoi/tsudoi-top.htm>)

